

「学習」概念を広い 歴史文化的現実へ

Y・エンゲストローム著
山住勝広他訳

『拡張による学習』

—活動理論からのアプローチ—

心理学・教育学のなかで名のみ高く全体像がなかなか伝えられてこなかったエンゲストロームの主著の邦訳。

従来、学習といえば一般に個人が社会の要求する知識や行動のルールを獲得し、内面化してゆく個人的な過程をさす。この『拡張による学習』は、これに対して、学習を歴史—文化的現実のなかに明確に位置づけ、その過程を社会の転換をはかりつつ自分たち自身を変えてゆこうとする、人々の集合的な創造活動である、とする。

人間は社会的真空に生きるのではなく、特定の歴史—文化的現実のなかに生をうけ、周囲の人々、社会、環境との複雑な相互関係のなかに投げ込まれる。この社会的環境、歴史—文化的現実には、矛盾、葛藤、ダブルバインドのつぼで、たえざる変動を経験している。学習とは状況に適應することではありえず、状況を問題化し、批判し、その転換をめざす創造的な活動にならざるを得ないだろう。

『拡張による学習』はこうして、学習を、社会の矛盾を自ら変化と運動の源泉としながら、その運動そのものから生まれる可能性を実現しようとする、活動であるとするのである。「学習」概念をせまい実験室や教室から解放して、知のあり方、教育のあり方に新たな展望を拓いた研究である。

四六判 本体三五〇〇円

【新曜社刊】

